

会 議 録

| | |
|--------------|--|
| 名 称 | 令和7年度第3回目黒区男女平等・共同参画審議会 |
| 日 時 | 令和7年9月26日（金） 午後1時30分～午後3時30分 |
| 開催方法 | 対面とオンラインの併用開催（会場：目黒区総合庁舎4階特別会議室） |
| 出席者 | （委員）神尾会長、小出副会長、岩田、小林、田中、薬師、片渕、久保、駒崎、竹内、吉岡 （区側）総務部長、人権政策課長、事務局 |
| 傍聴者 | なし |
| 配布資料 | ・次第 ・【資料1】答申書案 ・【資料2】推進計画改定に向けた意見一覧 ・【資料3】評価する上での今後の課題（R4～R6） ・【資料4】推進計画答申書（令和元年度） |
| 会議次第 | 1 開会 2 「目黒区男女平等・共同参画及び性の多様性の尊重を推進する計画の進捗状況の評価について」の答申案について 3 「目黒区男女平等・共同参画及び性の多様性の尊重を推進する計画」の改定について 4 その他 5 閉会 |
| 会議の結果及び主要な発言 | 1 開会 ・定足数、傍聴者の確認 ・資料確認 2 「目黒区男女平等・共同参画及び性の多様性の尊重を推進する計画の進捗状況の評価について」の答申案について （1）答申案の修正内容の確認 事業評価小委員会委員が修正箇所について説明した。 （2）答申案の修正等についての意見交換 ○主な意見 （委員） 答申書に記載のない話だが、選択的夫婦別姓制度に関し通称使用の拡大がテーマになっている。目黒区においてどうなっているか、審議会として関心をもつべきではないか。区という行政において申請処理・書類等において通称使用の扱いはどのようになっているか。区が独自に受けている申請書類、区が独自に判断できるもの、区の条例で規定しているものについてはいか |

| | |
|--|---|
| | <p>がか。</p> <p>(人権政策課長) 法令上可能なものについて希望があれば記載はできる。国の動きや法をみながら進めているが、区独自では特段ない。例えば、区の職員の旧姓使用は認めているなどはある。</p> <p>(総務部長) 独自の条例において通称使用を認めているものや制度は恐らくない。本人確認の中で通称が認められているものについては、本人確認のあり様による。公的に使用できる範囲の中で本人確認を行っている。</p> <p>(3) まとめ 修正はなしとする。</p> <p>3 「目黒区男女平等・共同参画及び性の多様性の尊重を推進する計画」の改定について</p> <p>(1) 改定に向けた意見について</p> <p>【資料2】推進計画改定に向けた意見一覧を基に、各委員から一言ずつ意見をいただいた。</p> <p>○主な意見</p> <p>(会長) どうしてもこういう計画はすでにある事業の再構成になりがちである。そうではなく、これまでの審議会で事業評価し課題となった取組、国が示している第6次計画素案に示された内容や新しい視点を新計画に取り入れたらどうか。また、現計画の4つの目標はいいと思うが相互関係がみえていない。大項目1、2は男女共同参画社会の基盤となる目標を掲げ、大項目3はその基盤に則って理想的な共同参画の姿として位置づけ、大項目4はその計画を進めていく起動といったイメージで、項目間の関連が見えるように順番を変えてみたらどうか。さらに、重点課題については、固定的性別役割分担における男性への働きかけ等は重要なため、見直しが必要ではないか。</p> <p>(副会長) 社会の状況は男性優位の場面が多いため、共同参画へ推進していくために女性に向けたアクションが多いのは当然だが、一方で、男性側の方が不平等の対象になることもある。そちらにも目を向け男性から見た視点も入れていくべきではないか。また、情報収集や目標設定において、ベンチマークを国、都、他自治体等のデータを基にした検討をするべきではないか。他自治体との連携をもっと積極的に行い、それを基に計画を組んでいきたい。</p> <p>(委員) 意識改革が起こらないと男女平等共同参画は難しいと思う。アンケートの結果や現状をみると、企業の事業所内の意識改革の方が一般区民のかたの意識改革よりも進んでいると思う。一</p> |
|--|---|

| | |
|--|---|
| | <p>般的に言うとも年齢を重ねるほど価値観の変化は起こしにくいのではないかと。区民には高齢のかたも多くいると思うが、高齢化が進み意識を変えにくいのかたが多くいるという前提でどうしたらいいかという視点を全般的に入れたほうが成果は出るのではないかと。</p> <p>(委員) 女性委員ゼロの付属機関等が存在していることが一番気になっている。今までと異なるアプローチが必要なのではないかと。また、PDCAのサイクルについて、効果まで含め評価し必要に応じ見直すことが重要ではないかと。その辺りを計画改定していく中で取り組めたらいい。また、国、都や他自治体を参考にして目黒区でもより良い計画を策定できたらいい。</p> <p>(委員) 企業側では人手不足が深刻な問題になっている。元を返せば少子化の課題は大きい。少子化をいかに食い止めていくか、国や行政が力を入れて改善していかないと中小企業の存在が危ぶまれる。男女平等については、男女から老若男女・身体が不自由なかたも全部含め平等という考え方にシフトしていくべきではないかと。</p> <p>(委員) 事業者への支援の効果を図るため事業者向けの調査を実施し、効果測定し把握することが重要ではないかと。また、区民意識調査の解析において年齢別構成により5年後10年後がわかるのではないかと。さらに、DV防止やセクハラ被害等に対して計画的に考えていく必要があるが、もう少し大きな枠組みの中で捉えられるような事業展開や調査の仕方があってもいいのではないかと。固定的な性別役割分担意識について啓発事業が組み込まれていないため、次期計画では改善してほしい。</p> <p>(委員) アンケート・調査に答えることが自分も社会に参画しているという意識の芽生えになると思うので、項目に対するアプローチもできたらいい。また、世田谷区で事業を行っているが、事業所に対する人権の意識の徹底も区から周知がなされている。一方で、一般区民においてはなかなか自分から自発的に情報をとりにいかないと意識は変わらない。そこにどのようにアプローチできるか。当事者の声・現場の声を聞くことによって、アンケート回答が果たして広い声なのか、個人的な声なのかかわからない部分もある。より広い声をとるためにどうしたらいいのか考えていけたらいい。</p> <p>(委員) 新しい観点、新しい事業がないという印象を受ける。大きな理由は適切な効果測定があまりされていないのではないかと。評価の軸を決めフィードバックがあるといい。各所管で、事業実施やフィードバックが再度できるといい。また、女性の地位の</p> |
|--|---|

| | |
|--|---|
| | <p>向上はできてきたと思っていたが、女性でも男性でも比較的強い人と声を上げにくい人がいて、声を上げにくい人が女性側にはまだ多いのかなとここ数年感じている。</p> <p>(委員) 目黒区だからこそそのニーズを汲み取った施策やアプローチ方法を考えていってもいいのではないか。目標設定値を長くやっているなかで、その目標値が妥当なのか見直しをしてもいいのではないか。他地域や国の指標などとの比較も行い検討し設定すべきではないか。</p> <p>(委員) この審議会で扱う課題は、当初は男女平等参画だけだった、そこに性の多様性の尊重が追加された。審議会はどういう仕事をするのかといえば、目黒区の政策策定・方向性に対して意見を言うという仕組みである。男女平等・共同参画社会を目指すという時にはどうなったらいいという共通認識はあると思う。では、性の多様性を尊重する社会について、どうなったらいいかの共通認識が審議会の中であるのか。それが無いのに L G B T への配慮を意識した行動に係る評価はできないのではないか。男女平等は入れ替え可能性を考慮したら、ある程度見やすく審査しやすい。L G B T を尊重している・していないという評価基準をどこに設けるのかについて議論をし、行政に対する提言である以上審議会としては控えめに意見するべきではないか。推進計画の中でどのように扱うのかはぜひ議論いただきたい。</p> <p>(会長) L G B T について、現計画での位置づけについてはいかがか。</p> <p>(委員) そのこと自体はよい。中身について評価をするというのは不可能ではないか。</p> <p>(委員) 今回【中項目】3－5の答申書作成を担当したが、なにをもって評価するのかがとても難しかった。</p> <p>○その他意見交換</p> <p>(委員) この審議会は男女平等共同参画ということだが、男性と女性で特性が違うことが、物学的、身体づくりなど沢山ある。そうしたことを平等だけにするとほとんど考慮されないのではないか。公平性の問題ではないか。</p> <p>(会長) たしかに生物学的な違いはありそれはそれとして扱うが、人間としての価値は平等として扱う。</p> <p>(委員) 付属機関の委員構成を男女比 50%ずつにするというのは確かに平等だが、審議会や委員会によっては、係るかたは女性が多い・男性が多いといった団体等もあり、より多いかたの視点を活かすといった点で構成員の割合が違う方がいい、ということ</p> |
|--|---|

| | |
|--|--|
| | <p>はあるのではないか。</p> <p>(委員) それについてはずっと議論をしている。各委員会にはそもそもの行政目的がある。その目的を達成するために成された最もいい人選がたまたまどちらかの性に偏りがあったとして、それを否定するということは、行政目的を犠牲にするのか、と思う。大数の国レベルの委員会等であれば、社会情勢を判断する資料にはなるだろうが、目黒区においては、委員会によっては構成員が3名などもある。</p> <p>(委員) 付属機関の構成員を、あえて男女でミックスすることで違う化学反応がおき、総合的によりパフォーマンスができることもあるのではないか。</p> <p>(委員) 今回公募区民として入っている。公募委員が入る理由も同時に考えていく必要がある。専門家が入って議論を進めた方がスムーズなこともある。あえてその分野の専門家ではなかったり、当事者だが声をあげにくい人が参画する意味も同時に考えていく必要があるのではないか。</p> <p>(会長) これまでの社会構造の中で、女性が受けてきた経験・体現がいろいろな議論の場で、多様な視点として出せるのではないか。</p> <p>(委員) 女性だからという肉体的な差に起因して、考え方や制度で補えないものがあり、その差を埋められないものがあるのではないか。誰も排除されない、いろいろな考え方の人がどこにでも入っていけてさまざまな意見を言える、その土台を作るのが平等に資するのではないか。</p> <p>(委員) 行政目的を達成するためになにがいいかという基準で判断したときに、たまたま構成委員の男女比に偏りが起きたものを否定する必要はないのではないか、ということを申し上げた。</p> <p>(2) 推進計画改定小委員会(案)について 推進計画改定小委員会の設置について、会長から説明及び委員の指名(紹介)があった。</p> <p>4 その他 ○第4回審議会の開催予定 令和7年12月中に開催する。</p> <p>5 閉会</p> <p style="text-align: right;">以 上</p> |
|--|--|